

浦 信夫氏「勇気ある経営大賞」優秀賞受賞

株式会社相馬光学社長の浦 信夫氏が「勇気ある経営大賞」優秀賞を受賞されました。読売新聞社の受賞記事を掲載し（読売新聞社提供）、ご功績を称えます。

JAFIA 委員長 酒井忠雄

2009年(平成21年)10月25日(日曜日) 読 賣 新 聞

肉のうまみ 測定装置開発

「勇気ある経営大賞」優秀賞に

計測器メーカー「相馬光学」(日の出町平井)が、厳しい経営環境の中で挑戦を続ける中小企業を表彰する「勇気ある経営大賞」(東京商工会議所主催)の優秀賞を受賞した。豚肉や牛肉の脂肪酸の中に含まれている、うまみの指標となるオレイン酸を測定できるという先駆的装置を開発したことなどが評価された。中小企業庁が選定する今年の「元氣なモノ作り中小企業300社」にも選ばれた。

日の出「相馬光学」

浦信夫社長(65)は、電子顕微鏡の製造などを手がける「日本電子」(昭島市)に12年間勤務し、1976年に「相馬光学」を創業した。現在、従業員は約20人。薬や食品の成分を光で分析する装置「液体クロマトグラフ」の製造がメインだが、

どうする 地域経済

その市場は成熟し、今後、大きな伸びが期待できないため、新たに需要が見込める農業と環境の分野に参入した。農業分野で開発した「脂質測定装置」は、宮崎大学で畜産を研究している入江正和教授と浦社長を商社員



太陽電池の性能を測定する装置の前に、受賞の喜びを語る浦社長

がつないだことから生まれた。豚肉や牛肉のうまみを格付け検査員の五感でなく、客観的に判断してほしいとの生産者の声を耳にしていた入江教授との共同研究で、昨年 completion。豚肉や牛肉は、検査員が霜降りの具合を見たり、脂肪の固さを触ったりして値段を決める。装置は、うまみの指標となるオレイン酸を数値化できるため、生産者の期待に応えられる製品として注目されている。環境分野では、大手メー

カーが発電効率の良い太陽電池を作れるように、太陽電池の性能を測定する装置を開発し、研究を進める大手メーカーに提供している。

「日本電子」で同期だった大栗直毅氏が社長を務める日本分析工業(瑞穂町)が、昨年度の「勇気ある経

営大賞」の優秀賞を受賞。大栗社長の勧めで初めて応募し、優秀賞を得た。浦社長は「将来を見据えて製品の開発に取り組みしており、二つの装置とも7、8年前から研究してきた。今後は海外にも製品を広めていきたい」と意欲を見せている。